

ひかりこども園の制作、世界へ
- 想像の宇宙船に乗って創造の旅 -

ひかりこども園のたなばたまつりの制作が、
天文学この100年、その記念式典「ひとつ空の下」(Under One Sky)
を知らせる国際天文学連合のインターネットのページの表紙を飾っています。
国際天文学連合は、世界の天文学者で構成されている国際組織です。
来年2019年、その100周年を「ひとつ空の下」というテーマで祝うことになり、
そのための準備が進められています。

国際天文学連合と連絡を取っている世界70ヶ国のそれぞれの窓口の方々の
一覧のページに、ひかり保育園時代の制作が表紙の写真として選ばれています。

<https://www.iau-100.org/nodes>

園児さんや先生方と何度も「うちゅうのおはなし」で
遊んで楽しんだことを2014年度の日本保育学会の大会で発表したと同時に、
オランダ・ライデン天文台に本部が置かれている、
子ども向け天文教育研究・実践の研究所 Universe Awareness
(ユニバース・アウェアネス、宇宙へのとびら)に私から報告し、
そこからの2014年11月27日付のニュースとして世界に公表されました。

<http://www.unawe.org/updates/unawe-update-1448/>

今回、「ひとつ空の下」に関係するページのひとつに、
この時に報告した制作の写真が使われたのでした。
富田から推薦を入れたのではなく、「ひとつ空の下」の担当者が
世界の多くの実践報告の中からこの写真を選び、掲載してくださったのです。
ひかりこども園で受け継がれてきた豊かな文化が、
世界の科学者たちの目にも止まったと、ひいき目なしに言えるでしょう。

この制作は、「宇宙のイメージ」というテーマで、
ドロッピングで「星」、手形押しで「ながれ星」、
マーブリングで「地球」を表現しています。
想像の宇宙船に乗って創造の旅に出た、
そんな活動が目に見えます。

「ひとつ空の下」のテーマにぴったりですね。

和歌山大学教育学部 富田晃彦